

# 作業現場での労災事故の危険性を体験

## 専門家を招き安全教育講習会を開催

●山梨県山砕石事業協同組合

TOPICS

昨年11月28日～29日に、山梨県山砕石事業協同組合(理事長千野進氏 組合員13社)は、砕石事業での事故・災害を防止するための「挟まれ・巻き込まれ体験講習会」を実施、組合員企業の従業員100名以上が参加した。



高所作業用安全帯も  
使用方法を間違くと大事に至る

砕石事業は、河川からの砂利採取なく、山の岩石を砕き生コンクリートや路盤材等に用いる骨材(砂利)を製造。全国的には岩石の積み込み運搬などに使用する建設用機械や大

型重機による事故、砕石プラント内の高所からの転落、ベルトコンベア使用に起因する事故などが労働災害の上位にランクされ、減少しない状況にある。

本県の組合員事業所では、昭和61年からの33年間重篤な労働災害は発生していないが、労災事故は作業の慣れや誤った自己判断などからも生まれてしまう場合もあることから、組合では、作業に潜む危険の本当の怖さを知ってもらい体験してもらうことが事故を未然に防ぐための効果が高いものとして、今回の講習会を企画した。

講習会は、日鉄住金グループ企業の従業員教育を専門に行っている日鉄住金ビジネスサービス鹿島(株)から専任講師を招き実施した。講師料を含め多額の費用がかかったが、組合員各社からたくさんの従業員が参加したことで、非常に効果の高い安全教育講習会となった。



機械に巻き込まれた場合、人間の力では止められない

今回の講習で行った高所危険体験、ベルトコンベアなど回転する機械の危険体験、玉掛け危険体験などを通じて日常作業の中の危険性をあらためて身近に感じた参加者は、「自分自身だけでなく、大切な仲間や家族を守るためにも、各人が無事故・無災害で安全安心な職場づくりに努め、一層気を引き締めて業務に励みたい。」と真剣な眼差しで取り組んでいた。